

宮古諸島の鳥類相

Avifauna of the Miyako Islands, Southwest Islands, Japan

久貝勝盛・仲地邦博・金子進・砂川友広・砂川栄喜・山本晃

Abstract. The characteristics of the avifauna of the Miyako islands are explained. We have recorded 57 families, 330 species and have completed the birds list of the Miyako islands on the basis of two articles on "The Birds of the Miyako Islands (1981, 2000)".

The Miyako Islands which are located in latitude 24~25° N and in longitude 124~125° E, lie about 290km southwest of Okinawa island and about 450km east of the northern end of Taiwan.

The largest island is Miyako island with an area of approximately 159 square kilometers, and the highest point reaches 113m above sea level. Miyako island is composed entirely of limestone, which is divided into several elongated low plateaus lying with their longer axis parallel to each other. The island is rather flat and is given over almost entirely to agriculture. The climate is subtropical. The annual average temperature and rainfall are 23°C and 2,333mm respectively. The other islands of the Miyako chain are Minna, Tarama, Irabu, Shimoji, Ikema, Ohgami and Kurima island (see the Fig. 1). All of these islands are inhabited.

It is said that as the geological history of Miyako island is new, we do not find anything special. But recently, new animal species have been discovered successively. Especially, we do observe various species of birds here.

Key words: Avifauna, Miyako islands, Resident breeder, Migrant breeder, Winter visitor, Passage visitor, Irregular visitor, Accidental visitor, Endangered species, Extinct species, Scarce species, Threatened species, Vulnerable species, Rare species, Exotic species.

はじめに

九州から台湾までの約1,300 kmにわたって大小100余りの島々が点在する南西諸島。その南部に位置する宮古諸島は宮古島、伊良部島、下地島、池間島、大神島、来間島、多良間島、水納島の8島からなる。

沖縄本島より約290 km、石垣島より約130 km離れ、北緯24度48分から北緯24度52分、東経125度8分から125度14分を結んだ範囲にある。この位置がシギ・チドリ類、カモ類、サギ類、サシバ、アカハラダカのような渡りをする鳥にとっては重要な意味をもつ。つまり、宮古諸島は渡り鳥の絶好な中継地点になっているということである。

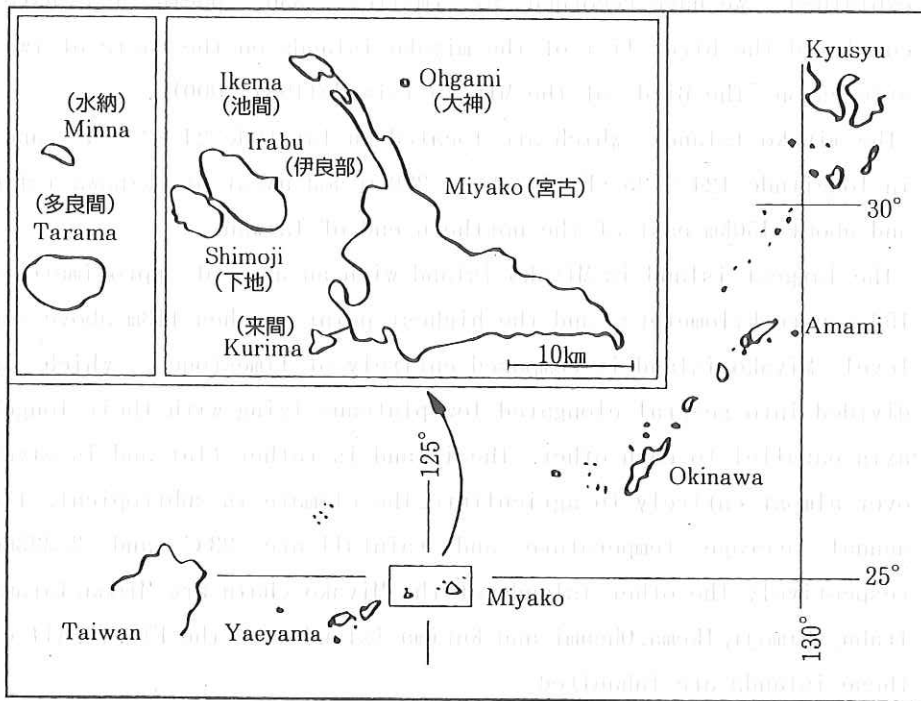


Fig.1 The map showing the Miyako islands

宮古諸島はこれまで何回かの沈降、隆起があり、地史が新しく生物学的にはあまり研究者の注目をひかない島とされてきた。しかし、近年、淡水産で宮古島固有種のみヤコサワガニ、県内でも分布が限られている絶滅危惧種の淡水産藻類シマチスジノリ、陸棲爬虫類両生類では宮古諸島を特徴づけるようなミヤコカナヘビ（宮古島固有種）、サキシマキノボリトカゲ（固有亜種）、サキシマスベトカゲ（宮古、八重山諸島の固有種）、キシノウエトカゲ（宮古、八重山諸島の固有種）、ミヤコヒメヘビ（宮古島固有種）、ミヤコヒバア（宮古島固有種）、サキシマヌマガエル（宮古、八重山諸島の固有種）、ミヤコヒキガエル（固有亜種）等が大きくクローズアップされ宮古諸島の生物学的な価値が見直され再評価されてきている。これまで宮古島は完全に水没しすべての生き物が死滅したという従来の考え方に大きな疑問が生じ宮古島の一部は水没せずに淡水産のみヤコサワガニをはじめ上記の貴重な生物種を育ててきたのではないかとされている。

ところが、今、宮古諸島では外来種の定着、繁殖が上記の貴重種に大きな影響を与え深刻な問題となっている。インドクジャク、シロアゴガエル、ミシシッピーアカミミガメ等、外来種が在来の動植物に大きな影響を与え宮古特有の生態系を攪乱している。インドクジャクにいたっては宮古島固有の貴重な小動物や野鳥等に脅威を与え農作物、特にカボチャや葉野菜類に大きな被害を出している。

宮古諸島の鳥類相をまとめるにあたり、帰化しているインドクジャクについてもコメントを加えた。

宮古諸島は地形が単調で山らしい山、川らしい川もない所である。そのため、生物相もそれ程豊かでない。しかし、鳥類に関しては大変に興味深いものがある。

宮古諸島の鳥類については久貝・山本が226種類(1981)、宮古野鳥の会が274種類(2000)を報告している。今回、上記の報告書や宮古諸島鳥類関係の文献、宮古野鳥の会会員からの確実な目撃記録、写真記録、新聞報道鳥類写真等を細かく吟味しより精度の高い鳥類目録作りにつとめた。

以下、留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥、迷鳥、外来種、貴重種について述べ最後に宮古諸島の鳥類目録を添付した。

1) 留鳥(Resident breeder)

山野の鳥の普通種としてメジロ、ヒヨドリ、キジバト、ズアカアオバト、セッカ、スズメ、ミフウズラ等がある。これらの鳥は県内においてはどこでもごく普通に見られる。ハシブトガラスは10年ほど前までは伊良部を除いて消滅種であったが近年、宮古本島でもあちこちで見かけるようになった。

ハシブトガラスの宮古本島での一時的な消滅の詳しい理由については不明だが、急激な環境の変化、例えば森林面積の急激な減少等で繁殖場所が少なくなったというのも一つの要因だろうと考えられる。あるいは農薬による2次的汚染も一つの要因として考えられる。

かつて大野山林あたりで見かけられた森林性のツミも渡りの時期以外はその姿を見なくなった。県内ではごく普通種の水辺の鳥としてカワセミ、ヒクイナ、カイツブリ、バン、カルガモ、リュウキュウヨシゴイ等がいるが、宮古諸島は水辺環境がことごとく潰され畑に変化してしまっていて、上記の水鳥達も消滅の危機にさらされている。

カワセミは大浦湾近くの湿地帯と白川田水源地一帯、下地町与那覇の水辺環境、池間島湿原、伊良部町佐和田一帯の水辺環境、城辺町浦底ダム一帯でよく見られたが、環境の激変でほとんど姿を見せなくなった。ヒクイナも同様である。カルガモは池間島湿原で繁殖する唯一のカモであるが個体数は少ない。リュウキュウヨシゴイは奄美大島を分布の北限とする南方系のサギの仲間池間島湿原、白川田水源地、伊良部町佐和田周辺、来間島、多良間島等で繁殖するが個体数は少ない。クロサギには白色タイプと黒色タイプがあるが、宮古諸島では黒色タイプが多い。クロサギも海岸線の環境変化で個体数は少ない。ここ20年の間に繁殖分布域を大きく広げた種としてシロハラクイナ、ゴイサギ、ムラサキサギ、ズグロミゾゴイ等がある。ムラサキサギとズグロミゾゴイは宮古島を繁殖分布の北限にしている貴重種でもある。

草原の鳥としてミフウズラ、セッカ等がある。一昔前まではミフウズラはイモ畑や野原等で数多く目撃された。しかし、近年、人間活動の広がり野原が消え、イモ畑はサトウキビ畑や

葉たばこ畑に替わりミフウズラの個体数は減少している。今、ミフウズラはサトウキビ畑で細々と生きている。セッカも同様である。

特異な分布をする山野の鳥としてカラスバト、キンバト、オオクイナ等がある。

カラスバトは体が黒色で紅紫色や緑色の金属光沢がある。海岸や島のよく茂った常緑広葉樹林にすむ。宮古島では大野山林、野原岳、城辺いこいの森等がメインの繁殖場所である。その他、伊良部島、多良間島でも繁殖している。国指定天然記念物である。キンバトは背と雨覆が金緑色で風切りは黒い。よく茂った林にすむ。宮古島では大野山林と野原岳がメインの繁殖場所である。国指定天然記念物。宮古島のキンバトは自然分布なのか人為的な分布なのかははっきりしないが、現在のところ宮古島が分布の北限である。その他、伊良部島、多良間島でも繁殖している。オオクイナは顔から胸が赤褐色。腹部と脇には白と黒の横縞がある。繁殖期には夜間、木の枝の止まってクワッ、クワッ、クワッと連続して鳴く。茂った低木林にすむ。個体数はそれ程多くないが、宮古諸島では各地で見られる。現在、宮古島が繁殖分布の北限である。また、これまで確認されていなかったリュウキュウキビタキの繁殖も確認され宮古諸島の留鳥の仲間入りをした。

夜行性の留鳥としてフクロウ科のリュウキュウコノハズクとリュウキュウアオバズクがいるがキビ畑の徹底した農薬散布によって餌となる小動物の確保が困難になってきている。また、森林面積の激減によって適当な繁殖場所が少なくなってきている。その為、ここ5～6年、両種の個体数が減少してきている。両種とも農作物に害を及ぼすアオドウガネ、バッタ類、ネズミ類等を捕食し農業上だいぶ人間生活に貢献している。夏の夜に聞くコホッ、コホッ、あるいはホッホー、ホッホーという鳴き声は人の心をなごませ、おちつかせる。こういうプラスの面が評価されずに宮古諸島の山野から姿を消しつつあるのは寂しい。

次にこれまで記録されている沖縄島、西表島、八重山諸島、久米島の鳥類リストから、留鳥を取り出して、宮古諸島で見られる留鳥と比較してみた (Table 1)。

調査地域	総面積	留鳥種数	全体比	総確認種数	備考
沖縄島	1,192ha	34	14.0%	242	与那城他(1984)
宮古諸島	225ha	28	8.5%	330	宮古野鳥の会(2009)
八重山諸島	538ha	34	11.6%	293	八重山野鳥の会(1983)
西表島	289ha	34	17.8%	191	西表天然記念物緊急報告書Ⅲ(1985)
久米島	58ha	25	17.5%	114	県立博物館久米島総合調査報告書(1995)

Table 1: 各島別留鳥種数の比較 (宮古諸島: 各周辺離島も含む、八重山諸島: 各周辺離島も含む)

宮古諸島の留鳥比が8.5%と少ないのは島の面積が小さい。森林面積が小さくて森林性のタカ類、キツツキ類、シジュウカラ類、サンショウクイ類、ウグイス類がない。湿地、沼地が少なく水辺環境を好むタマシギ類がないということ等に起因するものと考えられる。

2) 夏鳥 (Migrant breeder)

宮古の初夏を彩る鳥としてベニアジサシ、エリグロアジサシ、マミジロアジサシ、クロアジサシ等のアジサシ類がある。大浦岩礁（サンシンバナリ）、池間島北東に位置するフディ岩、東平安名岬近くのパナリ岩礁、大神島周辺の岩礁地域、伊良部島周辺の岩礁地域、多良間島、水納島周辺の岩礁地域等で上記アジサシ類の乱舞を見ることができる。

近年、コアジサシの繁殖も海岸近くの埋め立て地で見られるようになった。

フディ岩は南南東から北北西へ細長く、最大長約140m、最大幅約70m、標高約9mの無人島である。周辺には幻の大陸と言われる約30平方キロメートルにも及ぶ珊瑚礁のリーフ八重干瀬（やびじ）がある。このフディ岩では毎年約800羽前後のアジサシ類が樂園を作っている。ここで特筆すべき種としてマミジロアジサシ、カツオドリがあげられる。

マミジロアジサシは日本ではこれまで迷鳥とされてきたが、1980年八重山諸島の仲の神島とフディ岩、東平安名岬近くのパナリ岩礁で集団繁殖しているのが発見された（安部他、1980、1982）。現在フディ岩が分布の北限である。友利他（1975）によるとカツオドリはかつてフディ岩で繁殖していたが近年観察されていない。この頃、釣り人達の無責任な行為、例えば、大事な繁殖期に岩礁に上陸したり、釣り針のついたテグス等を放置し、それにアジサシ類や他の水鳥類がからまって死亡するという事故があいついでいる。このような事はちょっとした気づかいで防止できる。海鳥の集団繁殖地という立て看板の設置が望まれる。

山野の鳥としてはアカショウビン、サンコウチョウがある。毎年4月中旬頃には飛来し5月から7月にかけて子育てをする。アカショウビンのピーヒョロロー、サンコウチョウのツキホシヒホイホイホイという囀りは人の心を和ませてくれる。同時に夏の到来を感じさせる。アカショウビンの主な食べ物はトカゲ類、ヤモリ類、ヒメヘビ類、大型昆虫類（カマキリ、セミ）である。サンコウチョウの主な食べ物は昆虫類である。

ツバメチドリは1981年6月に初めて繁殖が確認され、それ以降、農耕地を中心に個体数を増やしている。

3) 冬鳥 (Winter visitor) ・旅鳥 (Passage visitor)

①サギ類、ガン・カモ類、シギ・チドリ類

与那覇湾（下地）、池間島湿原、国仲入り江（伊良部）等では宮古諸島で見られるほとんどすべてのサギ類、ガン・カモ類、シギ・チドリ類を見ることができる。

与那覇湾は湾口幅1.71km、面積1,300ha、湾内の最大水深が2mで宮古諸島では最大の干潟である。湾内にはリュウキュウスガモ、リュウキュウアマモ、ウミヒルモ、クビレズタ、ヒトエ

グサ等が見られる(環境省、2001)。マングローブ林も見られメヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ等が見られる。

1980年代に干ばつ対策としてこの干潟の淡水湖化計画が持ち上がった。しかし、漁民の皆さんが与那覇湾を守る会を結成し猛烈な反対運動を展開し淡水湖化計画は断念した。これまで与那覇湾一帯で記録されている鳥類は38科148種で内訳は陸鳥58種(留鳥13種、渡り鳥・迷鳥45種)、水鳥90種(留鳥7種、渡り鳥・迷鳥等83種)である。

与那覇湾で種類数の最も多い水鳥はシギ科で30種類(34%)、その次がサギ科で11種類(12%)、以下チドリ科10種類(11%)、カモメ科10種類(11%)、カモ科9種類(10%)、クイナ科6種類(7%)、カイツブリ科3種類(3%)、カワセミ科2種類(2%)、セイタカシギ科2種類(2%)、ヒレアシシギ科、ツバメチドリ科、コウノトリ科、トキ科、ツル科、ミヤコドリ科、タマシギ科それぞれ1種類(1%)の順になる。また、過去9年間(2000年~2008年)の冬期(1月)、春期(4月)、秋期(9月)のシギ・チドリ類飛来数を多い順に並べると冬期でオオメダイチドリ、ムナグロ、メダイチドリ、シロチドリ、トウネン、キョウジョシギ等の順になる。春期ではチュウシャクシギ、オオメダイチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、トウネン、キョウジョシギ、キアシシギ、ダイシャクシギ、シロチドリ等の順になる。秋期ではチュウシャクシギ、シロチドリ、キョウジョシギ、オオメダイチドリ、ムナグロ、キアシシギ、メダイチドリ、アオアシシギ等の順になる。また、この9年間に与那覇湾に飛来したシギ・チドリを個体数の多い順に並べるとオオメダイチドリ、ムナグロ、チュウシャクシギ、メダイチドリ、シロチドリ、トウネン、キョウジョシギ、キアシシギ、アオアシシギ、ダイシャクシギ等の順になる。

この事からすると与那覇湾は冬鳥、旅鳥型でシギ・チドリ類、サギ類を中心にした鳥相であると言える。

なお、与那覇湾は現在沖縄県の鳥獣保護区に指定されている。また、環境省のモニタリングサイト1000のコアサイトと日本の重要湿地500にも選定されている。その他ラムサール条約(1971年にイランのラムサールで開かれた国際会議によって採択された条約で湿地の保全だけでなく持続的な利用を提言している)に登録される条件も満たしている。与那覇湾で記録されたシギ・チドリの中でフライウェイネットワーク(1996年に発足した渡り性水鳥重要生息地ネットワーク等を基盤として2006年に再構築された渡り鳥保全のための国際的な枠組み)基準を超えている種としてメダイチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、キョウジョシギ、チュウシャクシギ等がある。環境省レッドリスト種の絶滅危惧種Ⅱ類のカテゴリーに分類されている種としてアカアシシギ、ホウロクシギ、セイタカシギ、ツバメチドリ等がある。

池間島湿原では県内で見られるほとんどすべての大型のガン・カモ類を見ることができる。池間島では久貝(1995)が28科92種を記録したが、その後、著者の一人仲地が地道な観察調査を続け2009年12月31日現在、46科199種類を記録した。その内訳は留鳥25種、渡り鳥174種類である。また、水鳥と山野の鳥の比率は91:108で約46%を水鳥が占め、約54%を山野の鳥が占めている。これからすると池間島は渡り鳥主体の水鳥、山野の鳥が多く見られる大変貴重な鳥である。もう一つの大きな特徴として、クロツラヘラサギ、ヘラサギ、マガン、ヒシクイ、サカツラガン、オオハクチョウ等の大型水鳥が出現しているということである。これは池間島が湿原に依存した鳥相であるということをも裏づけるものである。また、この湿原のあるおかげで

池間島全体の耕作地が潤っている。この湿原のもつ意義は大変に大きいと考えられる。

1993年6月、水辺環境を保護するためのラムサール条約会議が極東アジアで初めて北海道釧路で開かれた。この会議の目的はアジア諸国の条約への加盟促進と登録湿地の拡大を図るというものだった。今、世界的規模でマングローブ湿地や干潟を守ろうという運動が静かに起こっている。この与那覇湾も池間島湿原も大事にしたい水辺環境の一つである。

宮古島から約8 km離れた伊良部は海岸線が複雑に入り組んで野鳥の好む独特な形を作っている。伊良部島の国仲入り江や佐和田の浜周辺では春秋の渡りの時期に、コグンカンドリ、ハジロクラハラアジサシ、クロハラアジサシ、タゲリ、セイタカシギ、コシヤクシギ、サンカノゴイ、アカガシラサギ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ、ハイイログアン、アカツクシガモ等の思わぬ珍鳥に出会う。伊良部ではこれまでに41科168種類の鳥が記録されている(久貝、1997)。その内訳は留鳥17種、渡り鳥151種(夏鳥12種、冬鳥34種、旅鳥74種、迷鳥31種)である。水鳥と山野の鳥の比率は95:73で約1.3:1である。これからすると宮古諸島は何処も同じであるが、水鳥をメインにした渡り鳥主体の鳥相である。また、島の面積の割には数多くの鳥が記録されている。それは地理的にいい位置にあつて中継地に最適であるということの意味する。

多良間島にはシギ・チドリ類、ガン・カモ類が好む干潟や池、沼がなく渡来数も少ない。多良間島では42科129種の鳥類が記録されている(久貝、1998)。その内訳は留鳥17種、13%、渡り鳥112種、87%である。

②タカ類、ハヤブサ類、ツグミ類、ウグイス類、ヒタキ類、ホオジロ類、アトリ類、ムクドリ類

これまで宮古諸島で記録されているタカ類、ハヤブサ類はミサゴ、ハチクマ、トビ、オジロワシ、オオタカ、アカハラダカ、ツミ、ハイタカ、ケアシノスリ、オオノスリ、ノスリ、サシバ、クロハゲワシ、カンムリワシ、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、マダラチュウヒ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、アカアシチュウゲンボウ、セーカーハヤブサ等の23種である。この中で最も宮古諸島と関係の深いのは、1980年に日本で最初に「白露の渡り」として発見されたアカハラダカと昔から秋の風物詩としてみんなに親しまれているサシバである。

アカハラダカは朝鮮半島や中国東北部で繁殖し、日本では渡りの時に南西諸島や男女群島を通過し冬季はマライ諸島、ニューギニア等に渡る(高野1980)。下面は白く胸から腹にかけて赤褐色である。虹彩は雄では紅色、雌では黄色である。幼鳥の胸及び腹部には大きめの縦斑がある(黒田1984)。水田地帯を生活の場として、カエル、トカゲ、バッタ等を主な餌にしている。水田近くの松林に営巣する。島根県では1989年6月に営巣したが、繁殖に失敗した1件あるのみ(池長1991)で、これまで日本での記録は少なく、迷鳥として扱われていた。しかし、1980年9月に宮古島の犬野山林で230羽の群の渡りが発見され、その後の調査でサシバと同じくらいの規模で南西諸島を渡るということが確認されている。宮古諸島では9月10日前後2週間アカハラダカの渡りが見られる。宮古島では犬野山林、上野の野原岳、下地町入り江等がメインの渡りのルートになっている。また、旅の疲れをいやすねぐらにもなっている。アカハラ

ダカの渡りが発見されて約30年近くなるが謎の多い鳥でもある。朝の飛びたちは7時30分頃から8時30分頃にかけてであるが、島に入る時間帯がわからないのである。アカハラダカの飛行時速を40~50km、一日の最大飛行時間を12時間とすると一日の最大飛行距離は480~600kmとなる。宮古島・沖縄本島北部間の距離は420kmである。時速40km、沖縄本島北部を朝8時に飛び立つと宮古島に入るのは夜8時頃になる。数回にわたって夜7時過ぎまでアカハラダカの飛来状況をチェックしたが宮古ではまだ確認されていない。これまでの各地からの情報を総合して考察しても宮古島に入るのはどうしても夜8時~9時の時間帯になる。しかし、9月の夜の8時頃は真っ暗で鳥の観察は不可能である。いつかの機会にナイトスコープ等を使用してアカハラダカの進入時間帯を特定したい。

サシバは秋田県以南に夏鳥として渡来し低山や丘陵地帯の森林で繁殖する。沖縄の島々、特に宮古諸島に大群で飛来するのは秋の渡りの時である。国外では中国東北部、朝鮮半島北部で繁殖する。繁殖地を飛び立ったサシバは華南や東南アジアで越冬する。

サシバの幼鳥は目の色が黒みがかったような青色(方言名:オオミー、フッフミー)ないし青褐色(方言名:タリカスミー、ムタミー)をしているが成長するにつれて赤みの強い黄色(方言名:アカミー)や黄色(方言名:キンミー)に変化する。宮古諸島ではそのすべてのタイプのサシバを見ることができる。宮古諸島への飛来数は例年2万5千前後である。

ツグミ類は17種類記録されているがアカヒゲ、ノゴマ等6種類が旅鳥(PV)、ジョウビタキ、アカハラ等4種類が冬鳥(WV)、クロノビタキ、ハシグロヒタキ等5種類が迷鳥(AV)、クロウタドリが不定期に宮古諸島に飛来する鳥(IV)、イソヒヨドリが留鳥(RB)である(鳥類目録参照)。

ウグイス類は15種類記録されているがヤブサメ、エゾセンニュウ等3種類が旅鳥(PV)、ウグイス、キマユムシクイ等3種類が冬鳥(WV)、コヨシキリ、ムジセッカ等5種類が迷鳥(AV)、オオヨシキリ、センダイムシクイ等3種類が不定期に宮古諸島に飛来する鳥(IV)、セッカが留鳥(RB)である(鳥類目録参照)。

ヒタキ類は9種類記録されているがマミジロキビタキ、ムギマキ、オジロビタキ、ミヤマビタキ等4種類は迷鳥(AV)、オオルリ、サメビタキ、エゾビタキ、コサメビタキ等4種類は旅鳥(PV)、リュウキュウキビタキは留鳥(RB)である(鳥類目録参照)。

ホオジロ類は14種類が記録されているがシラガホオジロ、シロハラホオジロ等9種類が迷鳥(AV)、カシラダカ、ミヤマホオジロ等5種類は旅鳥(PV)である(鳥類目録参照)。

アトリ類は7種類が記録されているがアトリ、マヒワ等3種類が旅鳥(PV)、カワラヒワ、イスカ等3種類が迷鳥(AV)、イカルが不定期に宮古諸島に飛来する鳥(IV)である(鳥類目録参照)。

ムクドリ類は8種類記録されているがギンムクドリ、カラムクドリ等4種類が冬鳥(WV)、シベリアムクドリ、バライロムクドリ等は迷鳥(AV)、コムクドリは旅鳥(PV)である(鳥類目録参照)。

4) 迷鳥 (Accidental visitor)

迷鳥(AV)とは本来の分布域や渡りのコースからはずれて宮古諸島に飛来した鳥のことである

が、不定期に宮古諸島に飛来する旅鳥(Irregular visitor)と区別するのは難しい。今回、両者とも迷鳥として扱い、野鳥の会員各位がこれまで地道に観察記録した結果を更に細かく検討しAV とIVを区別した。例えばサギ類ではサンカノゴイ、カラシラサギ等をIV(不定期に宮古諸島に飛来する旅鳥)、オオヨシゴイ、タカサゴクロサギ等をAV(迷鳥)とした。

次に髙原他(2008)を引用して宮古諸島への極めて稀な迷鳥類の飛来記録と希少な繁殖記録について述べる。

ヒメウPhalacrocorax pelagicus:著者の一人である砂川によって2006年3月2日に平良港で1個体が確認された。本種は南西諸島からの記録はなく南西諸島での初記録になるようだ。

タンチョウGrus japonensis:1997年11月19日与那覇湾で確認。県内初記録。国内では北海道以外では極めて稀な漂鳥とされていることから中国大陸からの飛来の可能性が高いという。

インドガンAnser indicus:2007年9月27日に多良間島塩川で野鳥愛好家の木村健次氏によって1個体が確認された。本種は県内では初記録のようだがカゴ抜けの可能性が高いという。

コハクチョウCygnus columbianus:2005年1月11日に伊良部の下地島で1個体、2009年11月20日に下地地区のゴルフ場内の貯水池で6羽、2010年1月8日には伊良部島で1個体が保護されている。宮古諸島ではこれまでに4例記録されている。

オオハクチョウCygnus cygnus:2009年1月6日に池間島に飛来したが餌不足で死亡。その剥製標本は現在宮古島市総合博物館に収蔵されている。宮古諸島では初記録。

ナベヅルCrus manacha:1997年12月14日に伊良部島で1個体が確認された。宮古諸島初記録。

タカサゴクロサギIxobrychus flavicollis:宮古諸島では1997年6月19日に伊良部島で初認。その後2003年6月宮古島市内、2004年6月16日同じく宮古島市内で確認されている。

ナンヨウショウビンHalcyon chloris:2002年10月29日に与那覇湾で確認。2003年2月まで越冬。宮古諸島初記録。

クロウタドリTurdus merula:本種は1999年池間島、2003年上野地区、2005年池間島、2008年東平安名崎と飛来記録が増加している。

コウライウグイスOriolus chinensis:本種はこれまで2004年に伊良部島や池間島で確認されている。県内では稀な迷鳥として扱われている。

コチドリCharadrius dubius:2005年5月1日に宮古島市宮原で5月25日には平良港近くの埋め立て地(通称トゥリバー)で著者の砂川、仲地によって宮古島初の繁殖が確認された。

ゴイサギNycticorax nycticorax:2006年5月30日に下地地区で宮古諸島では初めての繁殖コロニーが確認された。

セーカーハヤブサFalco cherrug:中央ヨーロッパで繁殖し秋には南に渡る。遠くはアフリカの東北部ケニア、エチオピア、スーダンまで渡るものもいる。頭頂は白っぽい褐色で黒みがかった線がでる。成鳥の背面は褐色みが強いが幼鳥は暗褐色。日本ではまだ記録のない種だと思われる(Josef del Hoyo and others, 1994)。

なお、繁殖分布が確認された特筆すべき種としてムラサキサギArdea purpurea、ズグロミンゾゴイGorsachius melanolophus、リュウキュウキビタキFicedula Ficedula naruci-ssnowstoni等がある。

5) 外来種 (Exotic species)

宮古諸島における鳥類の外来種としてはキジ、インドクジャク、ドバト、シマキンパラ、キンパラ、キンパラ等がある。その中でインドクジャクは農作物や在来の貴重な爬虫類（サキシマスベトカゲ、ミヤコヒメヘビ、キシノウエトカゲ、ミヤコカナヘビ等）や国指定天然記念物のキンバトやカラスバト等に大きな被害や脅威をあたえている。

インドクジャク *Pavo cristatus* はキジ目、キジ科、クジャク属に分類されスリランカ、インド、パキスタン南部、ネパール南部に分布する。インドでは神聖な鳥として大切にされ保護されているが観賞用として世界各地に移入されている。

宮古諸島ではある建設業者が1980年代に八重山の小浜島から観賞用として学校や施設等に贈り飼育させたようだ。しかし、施設や学校側の不注意や台風等で逃げ出し今や、伊良部島と宮古島で着実に個体数を増加させ宮古在来の動植物や農作物等に被害を与えている。宮古島で初めて野外での繁殖が確認されたのは1989年7月28日上野地区新里である。

平成20年度宮古における野生化したインドクジャクの生息状況及び食性調査報告書（県自然保護課、2009）は繁殖地域として伊良部牧山、野田山林、大野山林、下地高千穂、城辺いこいの森、城辺オオシャンリンクスゴルフ場をあげ推定生息個体数として約204羽としている。また、雑食性で何でも食べるインドクジャクと競合している可能性の高い鳥としてミゾゴイ、ズグロミゾゴイ、オオクイナ、シロハラクイナ、キジバト、ズアカアオバト、カラスバト、ヒヨドリ、キンバト、ウグイス、シロハラ、アカハラ、メジロ、ハシブトガラス等をあげている。

6) 貴重種 (Scarce species)

次にこれまで宮古諸島で記録された貴重種を見てみたい (Table 2)。貴重種の範囲は次のようにした。①その地域固有の種 ②南西諸島に固有の種 ③国指定天然記念物 ④県指定天然記念物 ⑤環境省のレッドリスト（2006）、沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（2005）に示された絶滅危惧種、危急種、希少種等にランクづけされた保護すべき種。

種名	国指定	県指定	絶滅種	絶滅危惧種	危急種	希少種	分布
ミヤコシヨウビン			●				EX
コウナリ	●			●			AV
マガン	●					●	AV
ヒシクイ	●						IV
キンバト	●			●			RB
ズグロミゾゴイ					●		RB
ムラサキサギ					●		RB
ツクシガモ					●		AV

オシドリ	101	●	●	IV
ミサコ	101	●	●	WV
オシロシ	101	●		AV
カンムリシ	101	●	●	AV
ハヤブサ	101	●	●	PV
タンチョウ	101	●	●	AV
ナベズル	101	●		AV
オオクイナ			●	RB
タマシギ			●	IV
ツバメチドリ			●	MB
マミシロアシ			●	MB
カラスバト		●	●	RB
リュウキュウキビタキ			●	RB
カツブリ			●	RB
オオミスナキチドリ			●	PV
アカオネットアイチヨウ			●	AV
シラオネットアイチヨウ			●	AV
カツオドリ			●	PV
アオツラカツオドリ			●	IV
アカアシカツオドリ			●	IV
サンカノゴイ			●	IV
リュウキュウヨシコイ			●	RB
チュウサギ			●	WV
クツテハラサギ			●	PV
ミフズラ			●	RB
リュウキュウヒクイナ			●	RB
ツルクイナ			●	IV
オオバン			●	WV
シロチドリ			●	RB
アカアシキ			●	WV
セイタカシギ			●	PV
スグロカモメ			●	PV
オオアシ			●	PV
ベニアシ			●	MB
エリグロアシ			●	MB
セグロアシ			●	IV
コアシ			●	MB
クロアシ			●	MB

リュウキュウコノハズク	●	RB
ヒメアマツバメ	●	PV
カワセミ	●	RB
ヤツガシラ	●	PV
リュウキュウサンショウクイ	●	PV
アカヒゲ	●	PV

Table 2 : 宮古諸島で記録された貴重種

MB : 夏鳥 RB : 留鳥 WV : 冬鳥 PV : 旅鳥 IV : 不定期な旅鳥 AV : 迷鳥
EX : 絶滅

Table 2 からわかるように宮古諸島では①と④の該当種はなく②の該当種としてアカヒゲ③の該当種としてキンバト、カラスバト、アカヒゲ等がある。絶滅種にミヤコショウビンがある。⑤の絶滅危惧種にコウノトリ、キンバト、カンムリワシ等がある。⑤の危急種にズグロミゾゴイ、ムラサキサギ、ツクシガモ、オシドリ、ミサゴ、ハヤブサ、オオクイナ、タマシギ、ツバメチドリ、マミジロアジサシ、カラスバト、リュウキュウキビタキ等がある。⑤の希少種にマガン、カイツブリ、オオミズナギドリ、アカオネツタイチョウ、シラオネツタイチョウ、カツオドリ、アオアシカツオドリ、アカアシカツオドリ、サンカノゴイ、リュウキュウヨシゴイ、チュウサギ、クロツラヘラサギ、ミフウズラ、リュウキュウヒクイナ、ツルクイナ、オオバン、シロチドリ、アカアシシギ、セイタカシギ、ズグロカモメ、オオアジサシ、ベニアジサシ、エリグロアジサシ、セグロアジサシ、コアジサシ、クロアジサシ、リュウキュウコノハズク、ヒメアマツバメ、カワセミ、ヤツガシラ、リュウキュウサンショウクイ、アカヒゲ等がある。

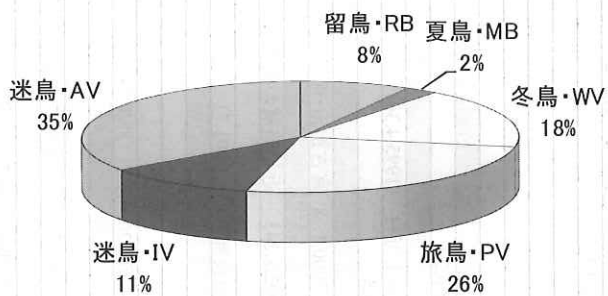
宮古諸島は小さな島ではあるが、国指定天然記念物10種、絶滅種1種、絶滅危惧種3種、危急種12種、希少種31種が記録されている。このことは、宮古諸島が渡り鳥のにとっていかに重要な場所であるかということを実に証明している。

これまでみてきたように、宮古諸島の鳥類相は他の地域といくらか異なった側面をもっている。島自体が小さく、森林面積も狭いわりには多くの鳥類、特に渡り鳥が多く記録されているというこである。それは島そのものの地理上の位置が大きく関係しているものと考えられる。

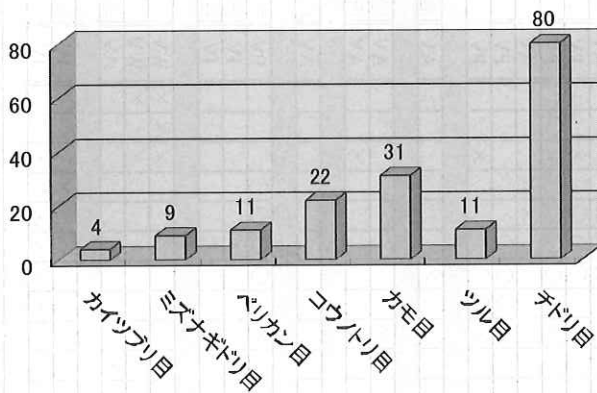
7) まとめ

今回、整理記録された宮古諸島の鳥類は57科330種類である。その内訳は留鳥17科28種類、夏鳥4科8種類、冬鳥14科58種類、旅鳥26科85種類、迷鳥45科152種類である。これからすると、圧倒的に渡り鳥、特に迷鳥が多い。南西諸島はみなそうであるが宮古諸島の鳥類相も渡り鳥を主体にした鳥相であるといえる。なお、鳥類生息分布の細かい分析は著者の一人仲地によってなされた (Fig. 2)。

生息区分



水鳥 種数



陸鳥 種数

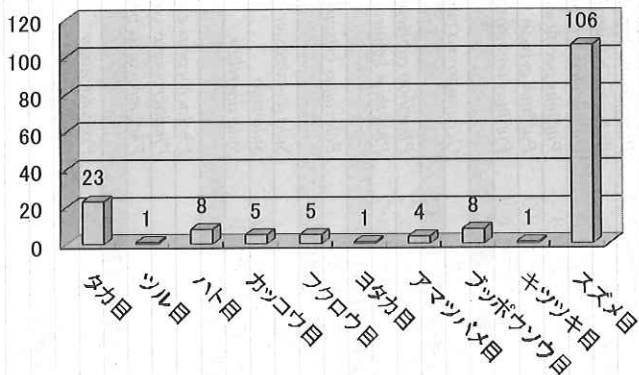


Fig. 2 宮古諸島の鳥類生息区分

8) 宮古諸島の鳥類目録(The birds list of the Miyako islands)

和名	学名	月別出現頻度												生息状況	備考	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
カイツブリ科 (4種)																
1 カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	冬季に数を増す
2 ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	IV	旧下地町(2007.12)	
3 ミミカイツブリ	<i>Podiceps auritus</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	AV	池間郷原(1991.1) 沖繩環境分析センター・私信)	
4 カウムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	IV	旧下地町入江(1999.11.19)	
アホウドリ科 (2種)																
5 エアホウドリ	<i>Diomedea immutabilis</i>													AV	絶滅危惧 I B 類 日本鳥類目録第 6 版	
6 クロアシアホウドリ	<i>Diomedea nigripes</i>								×					AV	旧平良市(1990.9)	
ミズナギドリ科 (6種)																
7 シロハラミズナギドリ	<i>Pterodroma hypoleuca</i>						×							AV	平良港 (1986.8.21)、佐良浜港 (2009.03.23)	
8 アオハラミズナギドリ	<i>Bulweria bulwerii</i>						○	○	○	○	○	○	○	PV	旧伊良部町 (1991.10.20)	
9 オオミズナギドリ	<i>Calonectris leucomelas</i>	×					○	○	○	○	○	○	○	PV		
10 オナガミズナギドリ	<i>Puffinus pacificus</i>									×				AV		
11 ハイエロミズナギドリ	<i>Puffinus griseus</i>									○	○	○	○	PV		
12 ハシボソミズナギドリ	<i>Puffinus tenuirostris</i>									×	○	○	○	PV		
ウミツバメ科 (1種)																
13 クロウミツバメ	<i>Oceanodroma matsudairae</i>								×					AV	池間島北方沖(2008.6.29)	
ネツタイチヨウ科 (2種)																
14 アカオネツタイチヨウ	<i>Phaethon rubricauda</i>													AV	絶滅危惧 I B 類 旧上野村 (1995.4.30)	
15 シラネツタイチヨウ	<i>Phaethon lepturus</i>												×	AV	旧城辺町 (1985.10.8)	
ペリカン科 (1種)																
16 ハイエロペリカン	<i>Pelecanus crispus</i>	×												AV	旧伊良部町佐和田(2000.1.8 宮古初認・保護後死亡)	
カツオドリ科 (3種)																
17 カツオドリ	<i>Sula leucogaster</i>								×	○	○	○	○	PV	アズ岩で繁殖 (2002.8.24) 近年繁殖の確認なし	
18 アアカシカツオドリ	<i>Sula sula</i>													IV	絶滅危惧 I B 類	
19 アオツラカツオドリ	<i>Sula dactylatra</i>													IV	絶滅危惧 II 類 旧伊良部町沖 (2001.7)	
ウ科 (3種)																
20 カウウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	×	×											WV		
21 ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>	×												WV		
22 ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>													AV	絶滅危惧 I B 類 平良港(2006.2.27 沖繩初)	
ゲンカンドリ科 (2種)																
23 オオゲンカンドリ	<i>Fregata minor</i>													IV	旧城辺町 (1990)	
24 コゲンカンドリ	<i>Fregata ariel</i>													IV	大神島 (1998.7.1)、旧平良市 (2002.7 台風で保護)	
サギ科 (18種)																
25 サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>	×	×											IV	絶滅危惧 I B 類 伊良部島 (1997)、多良間島 (1998)	
26 ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	WV	池間郷原では夏でも少数生息。繁殖可能性あり	
27 オオヨシゴイ	<i>Ixobrychus eurhthalmus</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	AV	絶滅危惧 I B 類	
28 リエウキエウヨシゴイ	<i>Ixobrychus cinnamomeus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB		
29 タカサコクロサギ	<i>Ixobrychus flavicollis</i>													AV	旧伊良部町国仲 (1997.6.19)、大野山林 (2003.6/2008.6)	
30 ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	×	×											PV	絶滅危惧 I B 類 一部冬鳥	
31 スズゴイ	<i>Gorsachius melanolophus</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	RB	絶滅危惧 II 類 旧伊良部町(2003.6 幼鳥を確認)、一部留鳥	
32 ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	WV	旧下地町(2006.5.30 繁殖コロニー確認)、一部繁殖	
33 ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	WV		
34 アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	PV		

和名	学名	月別出現頻度												生息状況	備考	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	凡例=○:ぶつうに見られる、×:数は少ない RB:留鳥、MB:夏鳥、WV:冬鳥、PV:旅鳥、IV:不定期な旅鳥、AV:迷鳥、EX:絶滅 一部越冬		
35 アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>			○	○	○								PV		
36 ダイサギ	<i>Egretta alba</i>	○	○	○										WV	稀にオオダイサギ	
37 チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	○	○	○										WV	準絶滅危種	
38 コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○	○										WV		
39 カラシラサギ	<i>Egretta eulophotes</i>	○	○	○	○	○	○							IV	準絶滅危種 与那覇湾 (1983.2.26/2003.4/2008.6)	
40 クロサギ	<i>Egretta sacra</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	幼鳥が少数越冬	
41 アホサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	WV		
42 ムラサキサギ	<i>Ardea purpurea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	池間湿原で少数繁殖(2003.6 国内の繁殖北限更新)	
コウトリ科 (2種)																
43 コウトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	×												×	AV	絶滅危惧 I B類 旧伊良部町 (1979.12.28)、来間 (1981.11)
44 ナベコウ	<i>Ciconia nigra</i>			×										×	AV	旧城辺町 (1980.5.4)、旧下地町 (2002.11.2)
トキ科 (2種)																
45 ヘラサギ	<i>Platalea leucorodia</i>	×	×	×	×	×								×	IV	旧城辺町 (1985.10.8)、旧伊良部町 (1993.12/2007.10.21)
46 クラハラハラサギ	<i>Platalea minor</i>	×	×	×	×	×								×	PV	絶滅危惧 I A類 与那覇湾 (1979/2008)、伊良部島 (1997)
カモ科 (31種)																
47 ハイイロガン	<i>Anser anser</i>				×										AV	与那覇湾 (1979.4.28)
48 マガン	<i>Anser albifrons</i>													×	AV	天然記念物 池間湿原 (1982.11.28)
49 カリガネ	<i>Anser erythropus</i>	×												×	AV	準絶滅危種 旧平良市 (2001.12.21)
50 ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	×												×	IV	絶滅危惧 II類 天然記念物 池間湿原 (1981.1.14/1991.11.16)
51 サンドガン	<i>Anser cygnoides</i>	×												×	AV	池間湿原 (1990/1997.12.9)
52 インドガン	<i>Anser indicus</i>													×	AV	多良間島 (2007.10)
53 オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>	×												×	AV	池間島 (2009.1.6 幼鳥)
54 コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>													×	AV	旧下地町 (2001.12.5)、多良間島 (2009.11.7)、旧下地町
55 アカツクシガモ	<i>Tadorna ferruginea</i>													×	AV	伊良部島 (1981.2.11)、与那覇湾 (1998.11.18 成鳥2羽)
56 ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>	×												×	AV	池間島 (1978.1.30)、旧上野村新里 (1999.12.23)
57 オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	×												×	IV	旧上野村 (1999.11)、旧伊良部村 (1999.12)、大野山林 (2006.11)
58 マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	WV	
59 カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	
60 コガモ	<i>Anas crecca</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	WV	
61 トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	AV	絶滅危惧 II類
62 ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	AV	
63 オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	IV	伊良部島 (1998.12.25)、池間湿原 (2000.1)
64 ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	WV	
65 アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>	×												×	AV	与那覇湾 (2004.1)
66 オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	WV	
67 シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	PV	
68 ハシビロガモ	<i>Anas chrypeata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	WV	
69 アカハシハジロ	<i>Netta rufina</i>	×												×	AV	日本鳥類目録第6版 (1967.2 成鳥3羽の採集)
70 ホシハジロ	<i>Aviha ferina</i>													×	IV	伊良部島 (2000.3.5)、池間湿原 (2009.11)
71 メジロガモ	<i>Aviha nyroca</i>	×												×	AV	池間島 (成鳥2009.1)
72 キンクロハジロ	<i>Aviha fuligula</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	WV	
73 スズガモ	<i>Aviha marila</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	WV	
74 ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>													×	AV	池間島 (1998.3.4)
75 ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	×												×	AV	与那覇湾 (2006.12)

和名	学名	月別出現頻度												生息状況	備考		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
76 コウライアイイサ	<i>Merergus squamatus</i>																凡例=○:ふつうに見られる、×:数は少ない RB:留鳥、MB:夏鳥、WV:冬鳥、PV:旅鳥、IV:不定期な旅鳥、AV:迷鳥、EX:絶滅
77 カワアイイサ	<i>Merergus mercanser</i>	×															旧下地町池原千祐 (2000.11.3) AV 島尻千湯 (1997.12.28) AV
タカ科 (17種)																	
78 ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一部越冬
79 ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i>																準絶滅危惧種 入江 (1999.9)、川瀬 (2001.10)、伊良部島 (2008.10)
80 トビ	<i>Mivus migrans</i>	×	×														旧城辺町 (1997.2)、多良間島 (1999.5)、久松 (2002.10) AV
81 オジロシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>																絶滅危惧 I B 類 鳥類目録第 6 版 (1884.3)、伊良部島
82 オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	×	×														準絶滅危惧種 IV
83 アカハラダカ	<i>Accipiter soloensis</i>	○	○														1980.9.18 渡りを日本初確認 PV
84 ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	○	○														リユエキョウツツミは繁殖未確認 一部越冬 WV
85 ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○														準絶滅危惧種 池間島 (1981.5.15)、大野山林 (2008.10.28) IV
86 ケアシノスリ	<i>Buteo lagopus</i>																池間島 (2001.10.30) AV
87 オオノスリ	<i>Buteo hemilastus</i>	×															添道 (2005.2.13)、池間島 (2005.12~2006.2) AV
88 ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	×															添道 (2005.2.13)、池間島 (2005.12~2006.2) AV
89 サシバ	<i>Buteo indicus</i>	○	○														絶滅危惧 II 類 一部越冬 PV
90 クロハガワシ	<i>Aegypius monachus</i>																日本鳥類目録第 6 版 (1967) PV
91 カンムリワシ	<i>Spilornis cheela</i>																絶滅危惧 I A 類 天然記念物 多良間島の海上 AV
92 ハイイロチョウヒ	<i>Circus cyaneus</i>																池間湿原 (1979.11.23/2004.10)、旧城辺町 (1998.5.23) AV
93 マダラチョウヒ	<i>Circus melanoleucos</i>																旧城辺町 (1998.5.28 ♀)、池間島 (2006.4.16 ♂) AV
94 チョウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	×															絶滅危惧 I B 類 一部越冬 PV
ハヤブサ科 (6種)																	
95 ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	×															絶滅危惧 II 類 一部越冬 PV
96 チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>																絶滅危惧 II 類 一部越冬 PV
97 コチヨウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>																伊良部島 (2007.10.17) AV
98 アカアシウゲンボウ	<i>Falco amurensis</i>																伊良部島 (2007.10.17) AV
99 チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○	○														伊良部島 (2007.10.17) WV
100 セーカーハヤブサ	<i>Falco cherrug</i>	×															旧下地町 (2008.1.3) AV
ミワズズ科 (1種)																	
101 ミワズズ	<i>Turnix suscitator</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減少 RB
ツル科 (2種)																	
102 タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>																絶滅危惧 II 類 天然記念物 与那覇湾 (1997.11.19 沖縄県初記録) AV
103 ナベツル	<i>Grus monacha</i>	×	×														絶滅危惧 II 類 天然記念物 伊良部島 (1997.12.14) AV
クイナ科 (9種)																	
104 クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	×	×														池間島 (2008.10.9) AV
105 オオクイナ	<i>Rallina eurizonoides</i>	○	○														絶滅危惧 I B 類 RB
106 ヒメクイナ	<i>Porzana pusilla</i>																添道 (2004.11~12) AV
107 ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	○	○														絶滅危惧 II 類 個体数減少 RB
108 シマクイナ	<i>Courticops noveboracensis</i>	×	×														絶滅危惧 I B 類 AV
109 シロハラクイナ	<i>Amaurornis phoenicurus</i>	○	○														個体数増加の傾向 RB
110 ツルクイナ	<i>Gallinix cinerea</i>	○	○														大神島 (2004.10.3)、旧下地町 (2008.11) IV
111 ベン	<i>Gallinula chloropus</i>	○	○														冬季増数 RB
112 オオバン	<i>Fulica atra</i>	×	×														少数越冬 (2008.2009) WV
レンカク科 (1種)																	
113 レンカク	<i>Hydrophasianus chirurgus</i>																旧平良市 (1981.10)、旧下地町 (1998.10)、池間湿原 IV

和名	学名	月別出現頻度												生息状況	備考	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
タマシギ科 (1種)																
114 タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>				X	X									IV	旧下地町池原干拓 (2007.3)
ミヤコドリ科 (1種)																
115 ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>														AV	与那覇湾 (1980.11)
チドリ科 (12種)																
116 ハジロコチドリ	<i>Charadrius hiaticula</i>	X													AV	与那覇湾 (2006.1.11)
117 コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	O	O	O	X	X	O	O	O	O					WV	宮原とトカラパー埋立地 (2005.5) で繁殖 一部繁殖 (2006/2009)
118 イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	X	X								X	X			IV	
119 シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O			RB	繁殖初認 (1981.7) 一部留鳥
120 メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O			WV	
121 オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O			WV	
122 オオチドリ	<i>Charadrius asiaticus</i>				X										PV	宮古空港 (1981.9.2 若2羽)、新里 (2002.9.26)
123 コバシチドリ	<i>Eudromias morinellus</i>									X					AV	旧上野村新里 (2006.10)
124 ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	O	O	O	O		X	X	O	O	O	O			WV	
125 ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O			WV	
126 ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>										X	X			IV	
127 タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>				X							X	X		PV	伊良部島 (2002.3.6)
シギ科 (40種)																
128 キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	O	O	O	O	O									WV	
129 ヒメハマシギ	<i>Calidris mauri</i>										X				AV	旧上野村新里 (2004.11) 与那覇湾 (2009.2.13)
130 ヨーロッパトウネン	<i>Calidris minima</i>				X										IV	トカラパー埋立地 (2005.5)、高野漁港 (2009.10)
131 トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O			WV	
132 ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O			WV	
133 オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>				X										PV	与那覇湾 (2005.4)
134 アメリカウズラシギ	<i>Calidris melanotos</i>									X					IV	漆道西部隠地 (1981.10.20)
135 ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>					X	X	X	X	X	X	X			PV	
136 ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	O	O	O						O	O	O	O		WV	
137 サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>				X					X	X	X	X		PV	
138 コオバシギ	<i>Calidris canutus</i>				X					X	X	X	X		PV	
139 オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>									X	X	X	X		PV	
140 ミユビシギ	<i>Croceethia alba</i>									X	X	X	X		PV	絶滅危惧 I A 類
141 ヘラシギ	<i>Eurymorhynchus pygmaeus</i>				X						X				AV	
142 エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>				X					X	X	X	X		PV	
143 キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>									X					PV	
144 オオハシシギ	<i>Limnodromus scolopaceus</i>									X					AV	与那覇湾 (2002.12)
145 シベリアオオハシシギ	<i>Limnodromus semipalmatus</i>				X										AV	島尻マンダロープ林 (2004.9 幼鳥)、与那覇湾 (2008.5.7 夏羽2羽)
146 ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>										X				PV	夏羽は見られない
147 アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		WV	絶滅危惧 II 類
148 コアアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X		PV	
149 アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		WV	
150 コアアシシギ	<i>Tringa flavipes</i>				X										AV	旧上野村新里 (2000.5.8)
151 クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		WV	
152 タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		WV	
153 キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O		WV	一部越冬

和名	学名	月別出現頻度												生息状況	備考		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
ハト科 (8種)																	
193 ヒメモリバト	<i>Columba oenas</i>													X	AV	旧伊良部町平成の森(2001.11.23)	
194 カラスバト	<i>Columba ianithina</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	準絶滅危惧種 天然記念物 冬季数を増す	
195 シラクバト	<i>Streptopelia decaocto</i>			X											AV	絶滅危惧Ⅱ類 旧上野村新里(2004.10)	
196 ベニバト	<i>Streptopelia tranquebarica</i>					X									IV	旧上野村新里	
197 キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	天然記念物 生息確認(1980.7)、繁殖確認(1999.6)	
198 キンバト	<i>Chalcophaps indica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	旧上野村新里(2006.10)、大野山林(2008.9)	
199 アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>														AV		
200 スアカオバト	<i>Sphenurus formosae</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	亜種チユウガイズアカオバト	
カウウ科 (5種)																	
201 ジュウイチ	<i>Cuculus fugax</i>					X									AV	大野山林(2008.6.5)	
202 ヲコウコウ	<i>Cuculus micropterus</i>				X	X									AV	大野山林(2009.6.18 鳴声で確認)	
203 カウコウ	<i>Cuculus canorus</i>				X	X									PV	大野山林(2003.5鳴声を確認)、池間島(2008.5.25)	
204 ツソドリ	<i>Cuculus saturatus</i>			X			X								PV	旧平良市(1981.9.2)、大野山林(1998.11.2)、新里	
205 ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>						○	○	○	○	○	○	○	○	PV	繁殖は未確認	
フラウウ科 (5種)																	
206 トラフズク	<i>Asio otus</i>	X													X	AV	平良市島尻(1981.12 宮古初認)、来間島(2001.1.26)
207 コミズク	<i>Asio flammeus</i>	X	X							X	X				IV	来間島(2004.2/2005.2)	
208 リュウキウウコノハズク	<i>Otus elegans</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB		
209 オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>	X	X							X	X				AV	大野山林(2006.2)	
210 アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	亜種リュウキウウアオバズクが繁殖	
ヨタカ科 (1種)																	
211 ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>				X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	PV	絶滅危惧Ⅱ類 長崎遊歩道(2002.11)、大野山林(2008.11.07)	
アマツバメ科 (4種)																	
212 ヒマヤアツバメ	<i>Aerodramus brevirostris</i>			X				X							AV	池間島(2007.4.1)	
213 ハリオアマツバメ	<i>Hirundanus caudatus</i>					X			X						PV		
214 ヒメアマツバメ	<i>Apus affinis</i>					X	X	X	X	X	X	X	X	X	PV		
215 アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>					X	X	X	X	X	X	X	X	X	PV		
カワセミ科 (5種)																	
216 ヤマシヨウビン	<i>Halcyon pileata</i>							X							IV	大野山林(1993.4.4)、池間湿原(2002.4.27)	
217 アカシヨウビン	<i>Halcyon coromanda</i>						○	○	○	○	○	○	○	○	MB	亜種リュウキウウアカシヨウビン	
218 ミヤコシヨウビン	<i>Halcyon Miyakoensis</i>	X									X	X	X	X	EX	日本鳥類目録第6版(1887.2.5採集1919新種として発表)	
219 ナンノウシヨウビン	<i>Halcyon chloris</i>	X	X								X	X	X	X	AV	与那福湾(2002.10.29 越冬)	
220 カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	RB	以前は繁殖するも、近年は確認できない。冬季に個体数増加	
ハチクイ科 (1種)																	
221 ハチクイ	<i>Merops ornatus</i>								X						AV	日本鳥類目録第6版(1904.7.9♂1羽採集 異例の迷行)	
ブッポウソウ科 (1種)																	
222 ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>			X				X							PV	絶滅危惧ⅠB類 大野山林(1984.9.10)、池間島(2002.8.31)	
ヤツガシラ科 (1種)																	
223 ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>			X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	PV		
キツツキ科 (1種)																	
224 アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>										X				AV	旧上野村(2006.10)	
ヒバリ科 (3種)																	
225 ヒメコウテンシ	<i>Calandrella cinerea</i>	X		X								X	X	X	AV	上野村宮国で越冬(1999.11)、池間島(2006.04.17)	

和名	学名	月別出現頻度												生息状況	備考		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
226 コヒバリ	<i>Calandrella cheleensis</i>					×											凡例=○:ふつうに見られる、×:数は少ない RB:留鳥、MB:夏鳥、WV:冬鳥、PV:旅鳥、IV:不定期な旅鳥、AV:迷鳥、EX:絶滅 トマリバー(2003.11.16)、東平安名崎(2009.6.19 叶内・私信)
227 ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>				×												PV 旧下地町(2007.12.11)、池間島(2009.3.8)
ツバメ科 (5種)																	
228 ショウドウツバメ	<i>Riparia riparia</i>						×										PV 旧下地町(2009.11)
229 ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>																PV 来間島(1980.6 繁殖初認)
230 リョウキウツバメ	<i>Hirundo tahitica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB 一部旅鳥
231 コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>					×											PV
232 イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>																IV
セキレイ科 (12種)																	
233 イワミセキレイ	<i>Dendronanthus indicus</i>																IV 大野山林(2006.9/2008.4)
234 ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	○	○	○													WV 亜種マシロツバメも見られる
235 キガシラセキレイ	<i>Motacilla citreola</i>					×											IV 旧城辺町(2004.11)、島尻/味田川(2008.4)
236 キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○	○	○													WV
237 ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	○													WV 亜種ホシセキレイも見られる
238 マミジロタヒバリ	<i>Anthus novaeseelandiae</i>	○	○	○													WV
239 コマシロタヒバリ	<i>Anthus godlewskii</i>																AV 東平安名崎(1982.2/1992.9)、旧下地町(2005.3)
240 ヨーロッパペンズイ	<i>Anthus trivialis</i>																AV 池間島(2004.03)
241 ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>																WV
242 セジロタヒバリ	<i>Anthus gustavi</i>																AV 旧平良市(1989.9/1998.12)
243 ムネアカタヒバリ	<i>Anthus cervinus</i>	○	○	○													WV
244 タヒバリ	<i>Anthus spinoletta</i>																PV 城辺総合運動場(2008.11.14)
サンショウクイ科 (1種)																	
245 サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>																PV 絶滅危惧Ⅱ類 亜種リュウキュウサンショウクイが主
ヒヨドリ科 (1種)																	
246 ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB 亜種リュウキュウヒヨドリは留鳥、亜種ヒヨドリは冬鳥または旅鳥
モズ科 (3種)																	
247 モズ	<i>Lanius bucephalus</i>																AV
248 アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	○	○	○													WV 亜種シマアカモズが主
249 タカサゴモズ	<i>Lanius schach</i>																AV 島尻(2004.02)、池間島(2005.10)
レンジャク科 (2種)																	
250 キレンジャク	<i>Bombvella garrulus</i>	×	×														PV 旧下地町川満(1997.1.26)
251 ヒレンジャク	<i>Bombvella japonica</i>																PV 旧城辺町(1986.12.2)、狩俣(2006.11.21)
ツグミ科 (17種)																	
252 アカヒゲ	<i>Erithacus komadori</i>																PV 絶滅危惧Ⅱ類 天然記念物 亜種アカヒゲが渡来
253 ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>																PV
254 ルリビタキ	<i>Tarsiger cyamurus</i>																PV 少数越冬
255 ショウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>	×	×	×													WV
256 ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	×	×	×													PV 旧上野村(2002.3/2009.1)、池間島(2004.10/2005.3)、少数越冬
257 クロビタキ	<i>Sexicola caprata</i>																PV 旧下地町(2002.5.18 宮古初認)
258 ハシグロヒタキ	<i>Oenanthe oenanthe</i>																AV 東平安名崎(1991.9.23 沖縄県初認 野鳥の会東京支部)
259 イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB 少数越冬
260 トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>																PV
261 カラアカラ	<i>Turdus hortulorum</i>																AV 大野山林標識調査(2002.10.31)、東平安名崎(2009.4.8)
262 クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>																AV 伊良部島(1981.10)

和名	学名	月別出現頻度												生息状況	備考
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	凡例=○:ぶつうに見られる, ×:数は少ない RB:留鳥, MB:夏鳥, WV:冬鳥, PV:旅鳥, IV:不定期な旅鳥, AV:迷鳥, EX:絶滅	
263	クロウタドリ			×	×									池間島 (1999.3.23)、日上野村 (2003.3)、東辺名崎	
264	アカハラ			○	○									IV	
265	シロハラ			○	○									WV	
266	マミヤジナ			○	○									WV	
267	ノドクロツグミ			×				×						AV	大野山林 (1998.12.9/2006.11)
268	ツグミ			×										PV	旧平良市 (2002.2.9 亜種ノドアカツグミ宮古初認)
	ウグイス科 (15種)			○	○	○								WV	亜種ハチジョウツグミも見られる
269	ヤブサメ													PV	
270	ウグイス			○	○						×	×		WV	
271	エゾセンニユウ					×								PV	
272	シマセンニユウ													PV	
273	コヨシキリ													PV	
274	オオヨシキリ													PV	
275	ムジセッカ			×	×									IV	池間湿原 (2009.12.13)
276	カラフトムジセッカ													IV	池間湿原 (2006.1)
277	キマユムシクイ			×	×									AV	池間湿原 (2007.12)
278	メボツムシクイ			×	×									WV	東平安名崎 (1990.9 沖縄県初記録)
279	エゾムシクイ			×	×									WV	
280	センダイムシクイ			×										WV	大野山林 (2006.4.5)
281	イイジマムシクイ													IV	
282	キクイタダキ													IV	絶滅危惧II類
283	セッカ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	AV	狩俣 (1997.11.20 宮古島初記録)、野原 (2007.12)
	ヒタキ科 (9種)													RB	
284	マミジロキビタキ			×	×									AV	旧城辺町 (1980.9.14 ♀1)
285	キビタキ			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	RB	亜種リュウキウキビタキは留鳥、亜種キビタキは旅鳥
286	ムギマキ													AV	荷川取 (1979.11)、大野山林 (2004.10)、大嶽公園
287	オジロビタキ													AV	いこいの森 (2003.10)
288	オオルリ													PV	
289	サメビタキ													PV	
290	エゾビタキ													PV	
291	コサメビタキ													PV	
292	ミヤマビタキ													PV	
	カササギヒタキ科 (1種)													AV	大野山林 (2008.10 宮古初認)
293	サンコウチョウ													MB	亜種リュウキウキウサンコウチョウ
	メジロ科 (1種)													RB	
294	メジロ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	RB	亜種リュウキウキウメジロ
	ホオジロ科 (14種)													AV	
295	シラガホオジロ													AV	池間島 (2003.11.6 宮古初認)
296	シロハラホオジロ													AV	旧上野村宮古 (2004.10)、東平安名崎 (2009.11.14)
297	ホオアカ													AV	池間島 (2001.10.25)
298	コホアカ													PV	旧上野村宮古 (2001.12.1 越冬)、フデ岩 (2002.4.28)
299	カシラダカ													PV	旧上野村 (2002.1)、池間島 (2009.3)
300	ミヤマホオジロ													PV	
301	シマオジ													AV	絶滅危惧IA類 東平安名崎 (♀2 2009.11.14)

和名	学名	月別出現頻度												生息状況	備考		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
302 シマノジロ	<i>Emberiza rutila</i>																凡例=○:ふつうに見られる、×:数は少ない RB:留鳥、MB:夏鳥、WV:冬鳥、PV:旅鳥、IV:不定期な旅鳥、AV:迷鳥、EX:絶滅 旧上野村宮国(2002.11.5 宮古初認)、野原(2003.12)、池間島(♂ 2009.11.4) AV
303 ズグロチャキヤンチョウ	<i>Emberiza melanocephala</i>																フネ岩(2002.4.28)、池間島(2006.11.19 2009.10.16) AV
304 ノジロ	<i>Emberiza sulphurata</i>																準絶滅危惧種 東平安名崎(1981.11.29)、池間島(2001.11 2009.11.5) AV
305 アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>																PV
306 クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>																PV
307 オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>																来間島(1982)、池間島(2009.11.16) AV
308 ツメナガホオジロ	<i>Calcarius lapponicus</i>																東平安名崎(1991.2 ♂若鳥1羽) AV
アトリ科(7種)																	
309 アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>																PV
310 カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>																亜種オオカワラヒワも記録される AV
311 マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>																PV
312 イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>																大野山林(1987.9) AV
313 コイカル	<i>Eophona migratoria</i>																咲田川(1982.10.3)、大野山林(2009.11.1) AV
314 イカル	<i>Eophona personata</i>																宮古高校(2002.3.28保護・放鳥)、大野山林(2008.11) IV
315 シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>																PV
ハタオリドリ科(1種)																	
316 スズメ	<i>Passer montanus</i>																RB
ムクドリ科(8種)																	
317 ギンムクドリ	<i>Sturnus sericeus</i>																狩俣(1982.3.14) WV
318 シベリアムクドリ	<i>Sturnus sturninus</i>																池間島(2003.10) AV
319 コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i>																PV
320 カラムクドリ	<i>Sturnus sinensis</i>																島尻(1981.12.5)、狩俣(1982.3.14) WV
321 ホシムクドリ	<i>Sturnus vulgaris</i>																WV
322 ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>																WV
323 パライロムクドリ	<i>Sturnus roseus</i>																旧上野村宮国(2000.12.27)、池間島(2003.4) AV
324 ハッカチョウ	<i>Acridotheres cristatellus</i>																東平安名崎(1997.9.4) AV
コウライウグイス科(1種)																	
325 コウライウグイス	<i>Oriolus chinensis</i>																池間島(2004.5) AV
オウチュウ科(2種)																	
326 オウチュウ	<i>Dicurus macrocerus</i>																AV
327 カンムリオウチュウ	<i>Dicurus hottentottus</i>																東平安名崎(1997.8)、旧城辺町(1999.9)、野田(2007.10) AV
カラス科(3種)																	
328 コクマルガラス	<i>Corvus dauricus</i>																AV
329 ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus</i>																AV
330 ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>																RB

日本鳥類目録第6版(2000年9月15日発行)

2009/12/31 現在

外来種

和名	学名	月別出現頻度												出現頻度	備考
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
1 キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	IB	1982.10.4狩猟目的で来間島に110羽放鳥。2000年以降目撃記録は少数。亜種コウライキジも見られる。入江(2006.12.14)で繁殖 カゴ抜けが大野山林、いこいの森、伊良部島などで繁殖
2 インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	IB	
3 ドバト	<i>Columba livia var. domestica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	IB	
4 シマキンバラ	<i>Lonchura punctulata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	IB	
5 キンバラ	<i>Lonchura malacca</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	IB	
6 キンバラ	<i>Lonchura atricapilla</i>	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	IB	別名アマハラ

籠脱げ

和名	学名	月別出現頻度												出現頻度	備考
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
1 シロゴシラトビ	<i>Halastur indus</i>					×									凡例=○:ふつうに見られる。×:数は少ない R:留鳥、SV:夏鳥、WV:冬鳥、PV:旅鳥、AV:迷鳥、EX:絶滅、IB:外来種 旧平良市(1983.5.19カゴ抜け?)

謝辞

本稿をまとめるにあたり宮古野鳥の会をはじめ一般市民、マスコミ、学校関係者、日本野鳥の会、沖縄野鳥の会、沖縄野鳥研究会、八重山野鳥の会の皆様方から懇切丁寧な野鳥情報を提供していただきました。心から感謝申し上げます。また、この寄稿を快くお引き受けいただきました宮古島市総合博物館の砂川明館長及び職員の皆様にも衷心より感謝申し上げます。

参考文献

- 安部直哉・真野徹、1980、日本におけるマミジロアジサシの繁殖、山階鳥研報、Vol.1,2 N o.3, 45~53
- 安部直哉・真野徹、久貝勝盛・山本晃、1982、マミジロアジサシの新繁殖地と体の測定値 山階鳥研報、14:72~76
- いらぶの自然(動物編)、1990、いらぶの自然編集委員会
- 池長裕史、1991、見に行こう!アカハラダカの渡り、Birder 5(10) Oct.
- 沖縄県環境保健部自然保護課、2005、沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物
- 沖縄県文化環境保健部自然保護課、2009、平成20年度宮古における野生化したインドクジャクの生息状況及び食性調査
- 沖縄野鳥研究会、1993、改訂 沖縄県の鳥、沖縄出版
- 沖縄県立博物館、1995、久米島総合調査報告書、文進印刷
- 沖縄県教育委員会、1985、西表島天然記念物緊急調査報告書
- 沖縄野鳥研究会、2002、沖縄の野鳥、新報出版
- 環境省 2001 日本の重要湿地500
- 環境省編、2006、日本の絶滅のおそれのある野生生物、脊椎動物、自然環境センター
- 黒田長久、1984、決定版 生物大図鑑 鳥類 世界文化社 東京
- 久貝勝盛、山本晃、1981、宮古諸島の鳥類目録、沖生研究会誌(14):15~29
- 久貝勝盛、岡 徹、山本晃、1982、宮古群島のアジサシ類、沖生研究会誌(15):11~18
- 久貝勝盛、1995、池間島の鳥類、平良市総合博物館紀要(2):79~86
- 久貝勝盛、1995、マングローブ林の生き物たち、私たちの自然(401):8~13
- 久貝勝盛、1996、平良市の鳥類、平良市自然環境保全基本構想 149~160
- 久貝勝盛、1996、下地町与那覇湾一帯の鳥類相、平良市総合博物館紀要(3):85~103
- 久貝勝盛、1997、伊良部の鳥、平良市総合博物館紀要(4):35~56
- 久貝勝盛、1998、多良間島・水納島の鳥類、平良市総合博物館紀要(5):39~68
- Josef del Hoyo and others, Handbook of the Birds of the world. Volume 2, New world Vultures to Guineafowl, Lynx Edicions, 1994
- 高野伸二、1980、野外識別ハンドブック、日本野鳥の会
- 嵩原建二他、2008、沖縄県内における2003年から2006年までの稀な鳥類の飛来記録と希少な繁殖記録について、冲国大南島文化研究所紀要第30号:127~144
- 友利哲夫・新垣秀雄、1975、沖縄の自然(野鳥)、新星図書
- 日本野鳥の会、2009、A FIELD GUIDE TO THE BIRDS OF JAPAN
- 日本鳥学会、2000、日本産鳥類目録、改訂第6版
- 平良市教育委員会、1979、郷土の自然
- 平良市教育委員会、1981、平良市の天然記念物
- 平良市教育委員会、1985、平良市の文化財
- 宮古野鳥の会、2000、25周年記念誌、印刷センターよなみね
- 八重山野鳥の会、1983、八重山地方の鳥類目録、10周年記念誌
- 与那城義春、久貝勝盛、玉城常雄、沖縄県の鳥類、1984、沖縄の生物、沖縄生物教育研究会:267~279